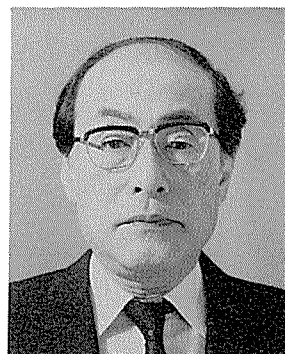


■ 巻頭所感



原 田 武 雄*

技術協会会員の皆様には、プレストレスト・コンクリート建設業協会（PC 建協）の事業に対しまして平素格別のご指導とご協力をいただき、お蔭様をもちまして PC 建協の事業は順調に進展してまいり、ここに創立 36 年目の新春を迎えることができました。巻頭にあたり、まずもって厚く御礼を申し上げる次第であります。

日本の PC 建設業界は正に戦後生まれの業界であります。今や国内においては国の基盤整備の一翼を担う業界としての地歩が固まり、また企業としての体制がようやく整った時期を迎えたと言えます。また、その PC 技術は世界の最高水準に達したものとされており。

これひとえに、PC 技術の有用性に着目して、いち早くその導入・開発・普及に努められた先輩諸兄の先見性に負うところは勿論であります。同時にプレストレストコンクリート技術協会（PC 技術協会）と PC 建協が、車の両輪としてこれまでに積み上げてきた成果でありまして、まことに慶賀にたえないところであります。

しかしながらこの間、日本の世界に対する地位は大きな変化を遂げました。これに伴って、特に最近では建設業界に対して日米建設協議をはじめとする国際化の波は急激に強まっております。このような情勢を踏まえて、PC 建協は目下真剣にその対応策を検討しているところであります。

また、国内の人手不足は 3 K に象徴される建設業界にとくに大きな影響を及ぼすようになってまいりました。技能労働者の不足と同時に、若手技術者の建設業離れが進んでおります。若手技術者の確保について、PC 業界にとって最も決定的なハンディは、土木建築系教育機関の中での極端な PC 専門講義の時間の少なさであります。国内でこれだけ PC 構造物が普及している状況からは想像できない実態であります。

PC 技術に対する理解者を増やし、優秀な人材を確保することが、PC 技術の一層の発展を期するためには、不可欠の要件であります。建協としても、この長期的な課題についての対策を模索しているところであります。

一方、産業界の労働時間の短縮は既にプログラムに乗って進められており、あと戻りは許されません。生産性の向上は建設業が最も遅れております。過去 10 年間の労働生産性の伸びは、製造業では約 2 倍であるのに対して、建設業ではほぼ横ばいといわれております。

このような情勢に対処するために、PC 建協は昨年労働力対策委員会を発足させ、建協自身が対処すべき問題と関係各方面にお願いすべき問題とを整理して勉強をしているところであります。なかでも特

* Takeo HARADA : (社) プレストレスト・コンクリート建設業協会会長

◇寄書◇

に施工の省力化につきましては、労働力対策委員会の間接報告を得て、各方面にご指導とご支援をお願い申し上げているところであります。

建設省ご当局は平成二年度を初年度とする、総合技術開発プロジェクト「建設事業における施工新技術の開発」に着手され、最重点施策として施工現場におけるロボット化・プレハブ化をセットとして技術開発を推進されると聞いております。まことに時宜を得た課題でありますので、その成果に期待しますと同時に業界としても真剣にこれに取り組まなければならないと考えます。

現在、PC建協が当面する諸問題についてご紹介申し上げましたが、いずれもPC技術協会の皆様のご指導とご協力をお願いしなければならない問題ばかりであります。何卒よろしくお願い申し上げます。

終わりに、PC技術協会の今後のますますのご発展を心から祈念いたしまして、巻頭のご挨拶に代えます。